平成26年度　活動計画（案）　　平成26年　1月

# 相談支援部会

**全体目標**

- がんによる死亡者の減少（75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少）
- すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上
- がんになっても安心して暮らせる社会の構築

**部会が担当する分野の課題と目標**

**【目標】がん患者さんやその家族ががん相談を希望すれば、いつでもどこでも質の高いがん情報の提供や相談が受けられ、よりよい治療法及び療養場所を選択することができる。**

**中期目標**：2015年3月までに県民の50%が相談窓口を知っていて、その8割ががんの悩みを解決でき、相談窓口での対応に満足している。
**指　　標**：①相談窓口認知度、②患者満足度
**測定方法**：患者満足度調査、拠点・支援病院がん相談件数の合算、分析

**最終目標**：2018年3月までに県民の80%が相談窓口を知っていてその8割ががんの悩みを解決でき、質の揃ったがん相談員が拠点病院、支援病院に配置されている。
**指　　標**：①相談窓口認知度、②患者満足度
**測定方法**：患者満足度調査、拠点・支援病院がん相談件数の合算、分析

**施策毎のアウトカム目標**

- 【アウトカム1】2015年3月までに県民全体の50%が相談できる場を知っていて、希望した時にいつでも利用できる。
- 【アウトカム2】相談員間で質の揃った対応が可能となり、その地域に不足している資源や課題が明らかになる。
- 【アウトカム3】インフォームド・コンセントが行われる体制と、患者自らが治療内容や治療法を確認し選択できる環境が整備される。
- 【アウトカム4】拠点病院・支援病院に相談員が適切に配置される。

**施策毎のアウトプット目標**

- 【アウトプット1】2014年9月までにがんに関連する施設等を通じて2万部配布する。2015年3月までに評価を実施し、冊子の更新を検討する。
- 【アウトプット2】2015年3月までに拠点病院共催で相談支援センターの広報活動を1回実施する。
- 【アウトプット3】ピアサポーター等と連携し、小児がんサバイバーのネットワークづくりを支援する。
- 【アウトプット4】2014年9月までに予備調査（認知度）を終了する。2015年3月までに結果を分析し、満足度調査表を作成する。
- 【アウトプット5】2015年3月までに支援病院で共通のがん相談集計シートを導入し、定期的に部会報告を行う。
- 【アウトプット6】2015年3月までに各拠点病院主催で年3回以上実施し、延100人の実務者が参加する。
- 【アウトプット7】2014年9月までに、作成した「小児がんマニュアル」の運用を開始し、2015年3月までに見直しを行う。
- 【アウトプット8】毎年演題を出し、部会委員が発表する。また、学会にて最新の情報を収集する。
- 【アウトプット9】セカンドオピニオンに関するアンケートを実施し、2015年3月までに結果を公開する。
- 【アウトプット10】毎年セカンドオピニオンリストを更新し、協議会ホームページへ掲載する。
- 【アウトプット11】2014年5月までに沖縄県へ配置についての要望書を提出し、支援病院へ実務者研修の参加を促す。

**施策アクションプラン**

- 【施策1】患者必携「地域の療養情」第4版を作成後の調査と今後の対策を行う。
- 【施策2】相談支援センターに関するチラシ配布やラジオ番組の参加等、広報活動を行う。
- 【施策3】働く世代や小児がん患者への支援の充実を図る。
- 【施策4】患者家族満足度調査実施し、分析結果の公開と、相談支援に活用する。
- 【施策5】県内のがん相談の傾向を計測し、部会計画の改定等へ活用する。
- 【施策6】がん相談員を対象とした研修会を開催する。
- 【施策7】がん相談支援センターの相談マニュアルを作成する。
- 【施策8】相談支援部会の活動実績を学会等で報告する。
- 【施策9】セカンドオピニオンの普及と活用を推進する。
- 【施策10】2014年9月までに県内のがん診療を行っている病院のセカンドオピニオンリストを作成する。
- 【施策11】沖縄県へ相談員の適正配置を要望し、相談員の実務者研修参加を増加させる。

**導き出された対策項目**

- 【対策項目 1】相談窓口の機能、役割についての情報を患者、市民に知らせる
- 【対策項目 2】相談支援の充実と質の向上
- 【対策項目 3】運営資源の充実化